

自 己 評 価 表

愛媛県立伯方高等学校
学校番号 18

教育方針	地域に根ざし、個々の生徒に応じた教育を目指し、勤労と責任を重んじ、人間性の涵養に努め、豊かな文化の創造と発展に寄与することのできる心身ともに健全な人間を育てる。	重点目標	『自らを律する心・確かな学び・豊かな人間性を身につけた生徒の育成』 ～個別指導の充実と主体性を育む教育活動の実践～ 1 自ら学ぶ力と、豊かな創造性を育てる。 2 強い精神力と、たくましい体力を育てる。 3 人をおもいやり、自己を律する心を育てる。 4 郷土を愛し、地域に貢献する心を育てる。 5 奉仕の精神を養い、自己有用感を育てる。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育活動全般	魅力ある学校づくりの推進	伯方高校に入学してよかったと思う生徒100%を目指す。	B	85%の生徒、88%の保護者が伯方高校への入学に対して肯定的に考えている。	さらなる授業力の向上や進路指導の充実、学校行事・部活動の活性化等を図ることで、地域の人たちにとって、より魅力的な学校づくりに努める。
		学校ホームページ(開校日毎日更新)や、にしき通信(年12回)、伯高タイムズ(年4回)の発行、周年行事の開催等による積極的な情報発信に努める。	A	ホームページ、発行物ともに100%達成されている。周年行事は、各校務分掌との連携により積極的な情報発信に努めることができた。	個別指導や課外活動の充実など、分校の特色を発信できよう、さらなる内容の充実を図る。
	教職員の資質・能力の向上	校外での研修を充実させ、各課・各教科と連携を深め、教職員の資質・能力や授業力等、生徒指導力の向上を図る。	B	各課・各教科と連携を図り、校外研修への参加を促し、指導力の向上を図ることができた。また、校内研究授業によって、自校の特徴に応じた授業の研究を行うことができた。	分校となるので研修のための予算確保が一層難しくなることが予想される。本校と交渉して参加枠を確保したり、参加者が学んだことを全体に広める工夫が必要となる。
	施設・設備の充実と校内美化	施設・設備の点検を毎月行うとともに、清掃活動を中心とした校内美化に努め、教育活動を行う場としてふさわしい環境づくりに努める。	B	施設・設備の点検は定期的に行っており、修繕箇所については順次対応しているが、費用等の問題等で迅速な対応が難しい箇所があった。	今後もこまめに点検を実施し、よりよい環境づくりに努める。校内美化については、場所を絞って集中的に実施することで対応する。
学習活動	家庭学習の充実	家庭学習時間調査を活用した個別面談の実施や長期休業中の課題一覧表を配布することにより、家庭学習の質の向上や学習時間の増加を図り、1日平均3時間以上学習する生徒数83名(80%)以上を目指す。	B	計画通りに家庭学習時間調査を実施し、担任が結果を把握することができた。長期休業中の課題一覧表を作成することにより、生徒の計画的な家庭学習を支援することができた。平均学習時間の目標値を達成できなかったが、2学期末には大幅に増加するなど向上がみられた。	考査前に補習を行った結果、学習時間の確保や学力向上につながり、生徒からも好評であったため、この取組をより充実させたい。
	教科指導力の向上	各教科はもちろんのこと、総合的な学習の時間においてもアクティブラーニングを推進する。また、電子黒板等のICT機器の利用を促し、指導力向上を図る。	B	総合学習の時間では、各プロジェクトがアクティブラーニングを推進することで、活発な活動がみられた。また、電子黒板の利用状況はやや少ないが、情報教室やプロジェクト等は多く利用された。	電子黒板を利用した研究授業を実施し、全ての教員が活用できる能力を育成する。
	各種検定の奨励	検定合格者のべ83名及び実用英語技能検定2級・漢字検定2級・実業科各種検定試験1級等の上位資格取得者合計10人以上を目指す。	B	検定合格者のべ60名、上位資格取得者2名であった。生徒数の減少等があり、数値目標を達成することはできなかった。	生徒たちに検定取得によるメリットを伝えるなど、検定受験に対する意識を高め、受験を奨励する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立	挨拶や言葉遣い、遅刻指導や身だしなみ指導を通して、基本的生活習慣の確立を目指し、各学期皆勤者75% (78名)以上、遅刻者数10名以下を目指す。	B	挨拶や言葉遣い、遅刻及び身だしなみに関する指導は、おおむね良好であった。各学期の皆勤者については、1学期76名(74%)、2学期64名(62%)、3学期71名(70%)と、各学期とも目標の75%には届かなかった。	挨拶や言葉遣い、遅刻及び身だしなみ指導については、進路実現にもつながっていくことを意識させながら、指導を継続する必要がある。特に5分前登校への意識を高める指導を継続していきたい。
		交通安全指導の充実	B	登下校指導を徹底したり、ホームルームの時間の有効活用や地元警察署と連携した交通マナーアップ啓発活動を行うなど、交通マナーの向上と交通事故ゼロを目指す。	交通安全意識の向上のため、次年度は交通安全委員会の活動を活性化させ、生徒の中から交通安全について自発的に考えるような取り組みを実施する。
		特別活動の活性化	運動会・文化祭・記念式等の70周年記念行事を中心とした学校行事を充実させ、生徒の満足度100%を目指す。	A	70周年記念行事については、充実した内容となった。生徒会活動や文化祭については、前年度の評価よりわずかではあるが高くなっている。
	運動部及び文化部の活動を活発にし、部活動加入者103名以上を目指す。 運動部、文化部で県レベル以上の大会に出場する生徒60名以上を目指す。		A	部活動加入者は、延べ人数で121名である。県総体・高文祭への出場は43名、新人戦等の県大会レベル以上に出場した生徒は40名と目標は達成できた。文化部は、全国大会に22名が出場するなど、活躍した。	部活動にも生徒数の減少が大きく響いており、これまで通りの活動ではなかなか満足感を得られていない。部活動の再編成や活動内容の精選を行う必要がある。また、サイクリング部などの特徴ある部の活性化に努めたい。
	ボランティア活動に積極的に参加し、地域との交流を深め、生徒全員が奉仕体験をすることをを目指す。		A	7月の豪雨災害に関して多くの生徒がボランティアに参加した。また、地元で実施されるイベントへの積極的な参加があった。	生徒会を中心とした呼びかけを行うことで、主体的な参加を促す。
	進路指導	進学指導の充実	教職員同士の連携及び生徒一人一人に応じた進学指導の徹底と適切な資料の作成及び提供を行うことにより、段階的に目標を定めさせ、進学希望者全員の進学(国公立大学4名以上)を目指す。	B	オープンキャンパスや進学説明会を活用することで進路選択の参考とさせた。また、受験対策として、担任や教科担任等に、面接指導や小論文指導を依頼し、計画的に指導することができた。
学習習慣の確立と基礎学力の定着のために、家庭学習の充実とサタデースクール満足度100%を目指す。			B	サタデースクールについては、休日に授業を行うので、負担感があるようである。また、部活動の大会とも重なり、十分に効果が得られないこともあった。	サタデースクールの計画や実施内容を事前に知らせることを徹底することで、家庭での事前学習を充実させ、サタデースクールに対する満足感を高めたい。
就職指導の充実		地元企業との協力により、就職情報の提供や求人開拓に努め、就職希望者全員の進路実現を目指す。	A	求人票一覧の作成、地元企業を招いての企業説明会、応募前職場見学の実施等により、希望者全員が内定することができた。	地元企業との結びつきを今以上に緊密にし、豊かな人間性や基本的な生活習慣・基礎学力を身に付けた生徒の育成に努める。
	各種資格の取得や基礎学力テストの定期的な実施により、学習習慣を身に付けさせるとともに、望ましい勤労観、職業観を育成する。	B	資格取得に関しては一定の成果が得られた。3年生基礎学力テストは徐々に平均点が上昇したものの、昨年度より下回った。	基礎学力の重要性を生徒に認識させるとともに、教科担任には生徒の意欲を高めるために出題内容の工夫や試験後の解説・復習をしっかりするための指導をお願いする。	